

<b>Title</b>	日本語と中国語の音節
<b>Author</b>	望月, 八十吉
<b>Citation</b>	人文研究. 25 卷 3 号, p.245-282.
<b>Issue Date</b>	1973
<b>ISSN</b>	0491-3329
<b>Type</b>	Departmental Bulletin Paper
<b>Textversion</b>	Publisher
<b>Publisher</b>	大阪市立大学文学部
<b>Description</b>	

Placed on: Osaka City University Repository

## 日本語と中国語の音節

望 月 八十吉

### まえがき

日本語の音節は、英語の音節に比べてはもちろん、中国語の音節に比べても

構造が単純で、種類が少ない。

と言われている。しかしこれは真実であろうか。とりあえず<種類が少ない>ということについて考えてみよう。

中国語の音節の種類は、声調を無視すれば411種類、声調を加味すれば1,300位だと言われている〔注①〕。日本語の方は、国語学会編の<国語学辞典>附録の<国語音節一覧表>によると102種類だとされている。しかしこれは“モーラ(拍)”の数であって、中国語的な意味での音節の数ではないから、この数字で直接比較することはできない〔注②〕。したがって<種類が少ない>ということについては再吟味が必要である。

### § 1 モーラと音節

研究者によっては、“音節”という術語を“モーラ”の意味で用いている場合もあるので、以下に“音節”と“モーラ”の相異を簡単に説明しておく。

1-1. “モーラ”とは時間を等分に区切る単位である。日本人には意識されていないが、外国人には日本語の発音は<タ, タ, タ, タ, ……………>と等間隔の音が、あたかも機関銃の発射音のように連続して発音されているように聞こえるらしい。その等間隔の<タ, タ, タ, タ, ……………>のうちの<タ>1つが1モーラなのである。したがって“モーラ”は“時間”の単位であると言うことができる。

1-2. 一方“音節”はどうかと言うと、シンタックスの領域で“文”の定義ができていないのと同様に、音声の領域では“音節”の定義ができていない。しかし<頭(アタマ)>を at-am-a のように切れ目を入れて発音したのでは<頭>の意にはとれず、やはり a-ta-ma のように切れ目を入

れて発音しなければならない。ということは、定義ができなくても“音節”が実在することを意味する。そこで大雑把な説明にならざるを得ないが、“モーラ”が“時間”の単位であるのに対して、“音節”は“手間”の単位であると言うことができる。人間が発話するときには、発音器管の筋肉の緊張・弛緩が繰り返されるが、そのうちの1回の緊張・弛緩によって発せられる音が1音節である。中国語では、発話の中での音節の時間的長さは画一的でないから、時間の単位である“モーラ”を設定する必要はない。英・独・仏語みなそうである。しかし日本語はそうではなく、上記のように等間隔に発音される音が連続するのであるから、音節とは別個に“モーラ”という単位を設定する必要があるのである。

## § 2 日本語の音節

日本語には“時間”の単位である“モーラ”以外に、“手間”の単位である“音節”という単位も存在する。

2-1. 日本語の音節はどのような構造をなしているのであろうか。次に国広哲弥氏の作成した日本語音節の structural rule (構造規則) を紹介する〔注③〕。

日本語の音節 → /C(S)V(M)/

/C/ → { /C<sub>1</sub>/  
/C<sub>2</sub>/ }

/C<sub>1</sub>/ → {/h, ' , m, n, ng, r, p, t, k, b, d, g, c, s, z/}

/C<sub>2</sub>/ → /C<sub>1</sub>/ minus /t, d, c/

/V/ → { {/a, i, u, e, o/} in environment /C<sub>2</sub>/ — }  
{ /a, e, o/ } in env. {/t, d/} —  
{ /i, u/ } in env. /c/ — }

/S/ → { /j/ in env. { /C<sub>2</sub>/ } — { /a/ } }  
{ /w/ in env. /' / — /a/ } { /u/ } }  
{ /o/ } }

/M/ → { /R/ }  
{ /J/ }  
{ /N/ }  
{ /Q/ }

/J/ in env. { /a/ } —, /Q/ in env. — { /p/ }  
{ /u/ } { /t/ }  
{ /o/ } { /k/ }  
{ /c/ }  
{ /s/ }

注：/M/はモーラ音素，/R/は長音音素（たとえば<計>/keR/）。/J/は<会・くい・鯉>の<イ>音。/N/は捲音音素<ン>，/Q/は促音音素<ツ>を表わす。これらのモーラ音素は前行母音に強さの谷なく繋がりがり，それ自体では音節を構成しないが，1モーラすなわち1拍の長さに該当するという共通の特徴を有する。

2-2. 国広氏の構造規則からも分かることだが，日本語の場合“モーラ”と“音節”との関係は次のようになる。

$$\frac{C(S) V}{1 \text{ モーラ}} \quad \frac{(M)}{1 \text{ モーラ}} /$$

つまり，日本語の1音節は/M/が存在すれば2モーラであり，/M/が存在しなければ1音節は1モーラである。

2-3. 日本語の音節は中国語の音節に比べて曖昧なのが特徴である。例えば<計画><敵艦>は次のようにいく通りにも発音される。

<計画>	ケ・イ・カ・ク	ke-i-ka-ku (4モーラ, 4音節)
	ケイ・カ・ク	keJ-ka-ku (4モーラ, 3音節)
	ケー・カ・ク	keR-ka-ku (4モーラ, 3音節)
<敵艦>	テ・キ・カ・ン	te-ki-ka-N (4モーラ, 4音節)
	テッ・カン	teQ-kan (4モーラ, 2音節)

つまり，ゆっくり丁寧に発音すれば，普通に発音した場合より音節数が増えるのである。しかしモーラ数はいかなる場合でも一定している。ここに日本語の発音の一大特徴があるのである。

日本語のモーラ数は安定しているが，モーラの種類には不安定な面がある。例えば複合語構成に際して次のような現象が起こる。

- ① 連濁：アオ+ソラ→アオゾラ（青空）
- ② 母音交代：サケ+タル→サカダル（酒樽）
- ③ 音挿入：ハル+アメ→ハルサメ（春雨）
- ④ 音節脱落：カワ+ハラ→カワラ（河原）（これはモーラ数に関係してくる）
- ⑤ 音韻縮約：テ+アライ→タライ（鹽）
- ⑥ 音便：ヒキ+ハル→ヒッバル（引っ張る）
- ⑦ 連声：サム+イ→サンミ（三位）

また日本語では，元来の日本語にはないモーラを表わすことが可能である。

- ① [tʂa] <ツァ> : オトツァン
- ② [tʂɛ] <ツェ> : シャンツェ
- ③ [ti] <ティ> : ティー・パーティ (<チー・パーチ>とは言わない)
- ④ [di] <ディ> : ビルディング
- ⑤ [Φa] <ファ> : ハイ・ファイ (<ハイ・ハイ>とは言わない)
- ⑥ [Φi] <フィ> : フィクション (<ヒクション>とは言わない)
- ⑦ [Φɛ] <フェ> : カフェー
- ⑧ [va] <ヴァ> : ヴァイオリン
- ⑨ [vi] <ヴィ> : ヴィタミン
- ⑩ [kwɛ] <クェ> : スクェア・ダンス
- ⑪ [kwo] <クォ> : クォーター

また元来の日本語になかった /s//N//Q/ が、日本語の音韻として定着したこともその1つの現われである。

中国語では音節が安定を欠く例としては、変調 (3声+3声→2声+3声)、音韻縮約 (pai+r→par (牌ル)) 以外の現象が見られないこと、外来語を現わすために使用されるとされるVも、実際にはまず使用されないこと、また元来の中国語が、外国語の影響で音韻変化を起したことは、少なくとも中古漢語以降ではまずないと考えられる〔補注①〕ことなど、日本語と非常に対照的である。

### § 3 中国語の音節

中国語では日本語と違って“時間”の単位を設定する必要がない。以下その理由を説明する。

3-1. 中国語は日本語と違って、丁寧に言うかそうでないかによって音節数が変わるということがない。これは中国語には声調があって、これが音素連続を1つの音節にまとめる役割を担っているからである。日本語にも高低アクセントがあるが、それはモーラごとに定まっている“高”(あるいは“低”)であって、音節をまとめる役割はもっていない。

3-2. 中国語の音節は、その時間的長さが画一的でない。例えば軽声音節の長さは、ザドエンコ氏によれば次のようになる〔注④〕。(単位は1/40秒。・印はその後の音節が軽声であることを示す)

例 語	語全体	前音節	後音節
東 西<東西>	44	20	24

東・西<品物>	25	15	10
生活<生活(する)>	50	23	27
生・活<暮らし>	25	15	10
兄弟<兄弟>	44	25	19
兄・弟<弟>	23.5	16	7.5

以上の例語において、軽声音節がきわ立って短くなっているが、短くなる率は声母より韻母の方が高い。

例	全音節	声母	韻母
「東西」の「西」	24	8	16
「東・西」の「西」	10	4	6
「生活」の「活」	27	6	21
「生・活」の「活」	10	3	7

軽声でなくても、“強重”のアクセント素〔注⑤〕をもつ語、例えば「現在」について観察してみても、前音節が後音節より短いことは、感覚的に容易に分かる。またカイモグラフで平均的発話における長さを測定してみると、わずかではあるが、声調によって音節の長さに長短のあることが判明する〔注⑥〕。

$$\text{第1声} : \frac{436}{1,000} \text{秒} \quad \text{第2声} : \frac{455}{1,000} \text{秒}$$

$$\text{第3声} : \frac{483}{1,000} \text{秒} \quad \text{第4声} : \frac{425}{1,000} \text{秒}$$

要するに、中国語では時間的に等間隔に分節して発音することがないから、日本語のように時間的な単位である“モーラ”を設定する必要はないのである。

3-3. 中国語の音節構造規則は、これまで誰も作成したことがないと思われる。そこで今回以下に掲げるような構造規則を作成した。実際の北京音系はもっと複雑な構造規則をもつのであるが、一応その概貌を知るために、3-5.で示すような便宜的措置を施している。

3-4. 中国語の音素分析に当たって、菊田正信氏の解釈〔注⑦〕に大体従った。音素のリストは次の通りである。

主母音：/i, ə, a/

介母：/i, u, iu/

韻尾：/φ, j, w, n, ŋ/

声母：/b, p, f, m



d, t, l, n  
 g, k, h  
 ǰ, ǰ', ǰ'', r  
 z, c, s  
 ' /

声調 : 1, 2, 3, 4/

3-5. 中国語の構造規則を作成するに当たって、次のような便宜的措置を施した。

イ. 「r化韻」は考慮しない。(「二」「児」などの/'ər/も同様)

ロ. êは感嘆詞にしか使われないので無視する〔注⑧〕。

ハ. 所謂<中国語音節全表>では, bou, biu, piu, fai, fao, tei, ten, tiu, nun, len, chei, shong, ra, rai, rei, ruai, ruang, ceiに該当する部分が空き間になっているが, 日本語の音節<ミュ>が, 実際には使われないのに, モーラとしてリストされているのに従い, 上記の音節も現実に存在するものとした(金田一春彦氏によると, <ミュ>は和語としては<大豆生田オオマミュージューダ>という人名にししか現われないそうである)。上記の音節を空き間のままにしても, 構造規則を作成できないことはもちろんないが, 規則が極度に複雑になる。

ニ. 声調はすべての音節に1, 2, 3, 4声が付いているものとした。

ホ. 菊田正信氏は, 舌面音 [tɕ, tɕ', ɕ] を舌端音 [ts, ts', s] の口蓋化されたものと解釈されているが, 筆者は舌根音 [k, k', x] の口蓋化されたものと解釈した。その理由は, 歴史的にはどちらの解釈も可能であるし, 筆者の解釈に従えば, 音素 /g, k, h/ は音素 /'/ とともに, すべての韻母と結合が可能になり, 構造規則が簡単になるからである。/g, k, h/ と /'/ の, 韻母との結合能力が全く同じであるという事は, /'/ を無声の/h/ に対する有声喉音音素であると解釈する可能性がある。

3-6. 中国語の音節構造規則は次の通りである。

- 1 中国語の音節 → /I(M)VE·T/
- 2 /I/ → {/I<sub>1</sub>~s/}
- 3 /I<sub>1</sub>/ → {/b, p, m/}
- 4 /I<sub>2</sub>/ → /f/
- 5 /I<sub>3</sub>/ → {/d, t/}

6 /I<sub>4</sub>/ → /n/7 /I<sub>5</sub>/ → /l/8 /I<sub>6</sub>/ → {/, g, k, h/}9 /I<sub>7</sub>/ → {/z̄, č, s, r/}10 /I<sub>8</sub>/ → {/z, c, s/}

11 /E/ → {/φ, j, w, n, η/}

$$12 \ /V/ \rightarrow \begin{cases} /i/ \\ /ə/ \\ /a/ \end{cases} \text{ in env. } \left\{ \begin{array}{l} \{I_{7,8}/ \text{ — } /φ/ \\ \{I_{3-s}/ \text{ — } /φ/ \\ /I/ \text{ — } \begin{cases} /j/ \\ /w/ \\ /n/ \\ /η/ \end{cases} \\ /I/ \text{ — } /E/ \end{array} \right\}$$

$$13 \ /M/ \rightarrow \begin{cases} /i/ \\ /u/ \\ /iu/ \end{cases}$$

$$/i/ \text{ in env. } \left\{ \begin{array}{l} \{I_{1,3-s}/ \text{ — } \{iφ, əφ, aw, əw, an, əη/\} \\ \{I_{5,6}/ \text{ — } /aφ/ \\ \{I_{1,4-s}/ \text{ — } /əη/ \\ \{I_{4-s}/ \text{ — } /aη/ \end{array} \right\}$$

$$/u/ \text{ in env. } \left\{ \begin{array}{l} /I/ \text{ — } \{iφ, əφ/\} \\ \{I_{3-s}/ \text{ — } \{an, ən, əη/\} \\ \{I_{6-7}/ \text{ — } \{aφ, aj, aη/\} \\ \{I_{3,6-s}/ \text{ — } /əj/ \end{array} \right\}$$

$$/iu/ \text{ in env. } \left\{ \begin{array}{l} \{I_{4-s}/ \text{ — } \{iφ, əφ/\} \\ \{I_{5,6}/ \text{ — } \{an, ən/\} \\ /I_6/ \text{ — } /əη/ \end{array} \right\}$$

14 /T/ → {/1, 2, 3, 4/}

注：1 I (nitial) = 声母

M(edial) = 介母

V(owel) = 主母音

E(nding) = 韻尾

T(one) = 声調

2 {/I<sub>1-s</sub>/} は {/I<sub>1</sub>//I<sub>2</sub>//I<sub>3</sub>//I<sub>4</sub>//I<sub>5</sub>//I<sub>6</sub>//I<sub>7</sub>//I<sub>8</sub>/} の簡略表記である。同様に、{/I<sub>7,8</sub>/} は {/I<sub>7</sub>//I<sub>8</sub>/} の簡略表記である。

{/I<sub>7</sub>//I<sub>8</sub>/} は {/I<sub>7</sub>/} と同じことを意味する。

3 /' / は所謂<ゼロ声母>(実際には喉頭の緊張)を表わす。

3-7. 次にこの構造規則を通じて、いくつかの注意すべき点を挙げる。



- 1 唇音/b,p,m,f/を/b,p,m/(=I<sub>1</sub>/)と/f/(=I<sub>2</sub>/)に分けたのは、介母/i/と共起するのは前者に限られるからである。(歴史的な音韻学で言う「重唇音」と「軽唇音」の差である)
- 2 主母音/i/は韻尾として/φ/のみをとる。(→規則12)
- 3 主母音/a/はいかなる子音とも結合するし、またいかなる韻尾とも結合する。(→規則12)
- 4 声母および韻尾との結合能力において/a/は/i/と/a/との中間に位置する。(→規則12)
- 5 介母/i/は韻尾/j/と共起しない。(→規則13)
- 6 介母/u/は韻尾/w/と共起しない。(→規則13)
- 7 介母/iu/は韻尾/j//w/のいずれとも共起しない。(→規則13)
- 8 介母/iu/の声母および韻尾との結合能力は、/i//u/に比べて非常に小さい。(→規則13)

#### § 4 日・中両語音節の比較

以上、日本語と中国語の音節について説明してきたが、ここで“まえがき”で述べた<日本語の音節は中国語の音節に比べて構造が単純で種類が少ない>ということが、真であるかどうかを検討してみる。

4-1. 2-1および3-6で、日本語および中国語の音節は、それぞれ次のような構造をもっていることが示された。

日本語の音節	/C(S)V(M)/
中国語の音節	/I(M)V E /

記号の使い方が日・中両語で統一されていないので、比較の便宜上、記号の使い方を次のように調整する。

イ. 日本語の/M/ (モーラ音素) は必ず音節末尾に位置するから、中国語の/E/(韻尾)に相当すると考えることができる。

ロ. 中国語の/I/(声母)は子音であり、必ず音節冒頭に位置するから、日本語の/C/に相当すると考えることができる。

ハ. 中国語の/M/(介母)は半母音であり、そして必ず声母と主母音との間に位置するから、日本語の/S/に相当すると考えることができる。

以上のイ〜ハによって日・中両語の音節構造を書きなおすと次のようになる(中国語の声調は一応無視する)。

日本語の音節 /C(S)V(E)/

中国語の " /C(S)V E /

このように書きなおしてみると、両者の差異は次の2点にあることが分かる。

イ. /E/に( )が付いているかどうか。しかし中国語の/E/には/ø/という消極的なものも含まれているのであり、もし/ø/を無視すれば、中国語にも( )が付くことになる〔注⑨〕。

ロ. /T/の有無。しかし日本語にも中国語とは性質が異なるが高さアクセントがあり、それはモーラ(拍)の高さの差(あるいは無差)となって現われる。上記の構造式について言えば、/C(S)V/と/M/との間に高さの差がある(あるいはない)のであって、これを弁別的と考えるならば、日本語の音節にも中国語の/T/に見合う成分が存在するということになる。

以上の2点をふまえて日・中両語の音節構造を観察してみると、両者はきわめて類似している。従って音節を構成する成分の種類について言うかぎり、日・中両語はほぼ同様であり、<日本語の方が構造が単純である>と言うことはできない。なお奈良時代の日本語の音韻体系には/S/も/M/もなかったこと、そして主として中国語の影響によってそれらが日本語に定着したことに注目すべきである。

4-2. <構造が単純である>かどうかを見るためには、4-1で検討したように、成分の種類を見るだけでは不十分で、それらの成分に成り得る要素の数をも検討する必要がある。

日本語の場合、要素の数は次のようになる。

$$\begin{array}{cccc} C & (S) & V & (M) \\ \vdots & \vdots & \vdots & \vdots \\ 15 & + 2 & + 5 & + 4 = 26 \end{array}$$

この合計26個の要素の可能な組み合わせの数は次のようになる。

$$\textcircled{1} \quad CV = 75$$

$$\textcircled{2} \quad CSV = 150$$

$$\textcircled{3} \quad CVM = 300$$

$$\textcircled{4} \quad CSV M = 600$$

$$\text{合 計 } 1,125$$

一方、中国語の場合には次のようになっている(声調は一応無視する)。

$$\begin{array}{cccc}
 \text{I} & (\text{M}) & \text{V} & \text{E} \\
 \vdots & \vdots & \vdots & \vdots \\
 19 & + 3 & + 3 & + 5 = 30
 \end{array}$$

この合計30個の要素の可能な組み合わせの数は次のようになる。

① I V E = 285

② I M V E = 855

合計 1,140

以上を要約すると次のようになる。

	要素の総数	可能性の総数
日本語	26	1,125
中国語	30	1,140

<要素の総数>において日本語は中国語の87%であり、<可能性の総数>において日本語は中国語の99%であって、両者はほぼ同じとすることができる。

4-3. 次に両国語で実際に使用される音節の種類はどれ位あるかを見てみよう。

まず日本語の場合、4-2で示した①+②の中、実際に使用される数を服部四郎氏は100とし、金田一春彦氏は109としている。③および④については、正確な数が計算されたことがあるのかも知れないが筆者は未見であり、また筆者自身も十分な検討を加えたわけではないが、/C(S)V/と/M/間には、/J/Q/以外にも共起制限があるようである。例えば<チャー>とか<ルン>といった音節はないように思われる。大体的見当ではあるが、日本語で実際に使用される音節の数は合計350種類位ではなからうか。

一方、中国語で実際に使用される音節の数は、研究者によって異なり、必ずしも一致していないが、例えば、中国語学習叢書編集委員会編<中国語音節全表>(江南書院、1956年)によれば次のようになる。

① I V E = 189

② I M V E = 222

合計 411

日本語の実際に使用される音節数がはっきりしないので、確実なことを言うことはできないが、上述の350という数字にそう大きな誤差はないと思われるから、中国語の方が日本語より6分の1だけ多いことになり、まず

大差ないと言うことができる。

4-4. 4-1~3の検討を通じて、音節を構成する成分、要素の数、可能な組み合わせの数、実際に使用される数のいずれにおいても、日・中両語の差が少ないことがほぼ明らかになったと思う。

しかし問題はこれで解決されたわけではない。それは2-1の日本語音節の構造規則と、3-6の中国語のそれを比較すればすぐ分かることであるが、中国語音節の構造規則の方が日本語のそれよりひどく複雑になっている。このことは、中国語では要素間の共起制限が厳しいのに反して、日本語では緩やかであることを意味する〔注⑩〕。

日本語では、/C/と/V/との共起関係が整然としているため、/C/を/C<sub>1</sub>/と/C<sub>2</sub>/の2つに分類すればすむ。また/S/と/C/V/との共起関係も整然としている。ただ/M/と/C(S)V/の共起関係は、国広氏の構造規則のように簡単ではなく再吟味を必要とするが、国広氏の規則では処理できない所謂“空き間”は少ない見通しであるから、全体として規則がそれほど複雑になることはない。

これに対して中国語では、/M//E/の有無、種類如何が、/I/と/V/の共起関係に非常に大きな影響を及ぼしており、したがって、/I/を/I<sub>1-8</sub>/の8種類に分類しないわけにいかず、また規則13を見れば分かるように、規則の適用を指示する環境の指定も、非常に複雑になるのである。

4-5. 4-1~4で検討したことをまとめれば、次のような結論になる。

日本語と中国語の音節を比較した場合、音節を構成する成分、要素の数、可能な組み合わせの数、実際に使用される数のいずれにおいても、双方大差がないが、共起関係は、中国語の方が日本語より非常に複雑である。したがって、日本語の音節構造の方が中国語のそれより簡単である、と言うことができる。より適切な言葉を使えば、より“整然”としている、と言うことができる。

## § 5. 発音学習上の問題点

以上に述べたことをふまえて、中国人が日本語の発音を、日本人が中国語の発音を学習するに当たっての問題点を指摘しておきたい。

5-1. 1972年8月、上海舞劇団大阪公演の際、幕合ごとに日本人女性と、中国人歌手・任桂珍さんの2人が手をつないで次の幕のアナウンスを、日本人女性は日本語で、任さんは中国語でしていたが、20分間の休憩に入る

前のアナウンスは、ご愛嬌に日本人女性は中国語で、任さんは日本語でした。その日本語は〈休憩20分〉という短いものであったが、ひどく寸詰りな感じがした。そこで、どうしてあんな発音になったのかを考えてみた結果、次のような結論になった。( | 線は音節の境界を、 | 線はモーラの境界を示す)

正しい発音

| kju | R | ke | R | ni | zi | Q | pu | N | (5音節・9モーラ)  
| キュ | ー | ケ | ー | ニ | ジ | ッ | プ | ン |

中国式発音

| kju | kej | ni | zi | pun | (5音節・5モーラ)  
| キュ | ケィ | ニ | ジ | プン |

5音節・9モーラで発音すべきところを5モーラで発音するから、寸詰りな感じを与えるのである。ではなぜ4モーラ短くなるかと言えは、次の理由による

1. 中国語には長音・短音の区別がない〔注⑩〕。したがって、いずれも短音のように発音する。一般に、中国人には〈ビル〉と〈ビール〉を言いわけるのが困難である。〈キュー〉を〈キュ〉と発音したのはこの理由による。
2. 中国語には促音がない。したがって〈ジッ〉が〈ジ〉となる。
3. 中国語では、韻尾が/φ/ (つまり韻尾がない) でも/j, w, n, ng/の場合でも、音節の長さは大体同じである。

歌	g e →
根	g e n
給	g e j

「歌」のように韻尾が/φ/の音節も、「根」「給」のように/n, j/の音節と、大体同じ長さに発音される。次の対照表は、声調が異ってもこの原則が動かないことを示すものである。〔注⑫〕。

	<声調>	<韻尾/φ/以外>	<韻尾/φ/>
一	声 東京 dongjing : 0.24秒	医院 yiyuan : 0.27秒	
二	〃 回答 huida : 0.27〃	衙門 yamen : 0.26〃	



三	〃	點心 dianxin : 0.27〃	古物 guwu : 0.27〃
四	〃	電話 dianhua : 0.24〃	利益 liyi : 0.27〃

したがって、|ブ|ン|という2モーラの音節を、|ブン|と日本語の半分の長さでしか発音しないのである。

「憩」は|ke| R|と発音しても、|ke| J|と発音してもよいのだが、前者の場合には、中国語には長・短音の区別がないことと、[kɛ]と発音される音節が字母kの呼び名を除いてないという理由のため、うまく発音できない。後者の場合も、[kɛ]という音節がないため、|ke| J|と2モーラに発音することができず、近似的な発音|kej| (「給」)で間に合わすのであるが、これはアメリカ人が、英語に[nɛ]という音節がないため、<……ナノネ>を<……ナノネィ>と発音するのに類する。

概略、以上のような理由によって寸詰りな発音になるのである。

<休憩><二十><分>のいずれもが字音語であるが、参考のため中古漢語音を示せば次のようになる〔注⑬〕。(括弧内は日本語における変化)

休/hɪəu/ (<キュウ>→<キュー>)

憩/k'ɛi/ (<ケイ>→<ケー>)

二/ri/

十/ʒɪp/

分/pɪən/

金田一春彦氏の談によれば、日本語でも古い時代には、中国語の1音節を1モーラで発音したらしい。例えば<阿耨多羅三藐三菩提>は中国語で9音節であるが、日本語でも最初は<ア・ノク・タ・ラ・サン・ミヤク・サン・ボ・ダイ>と9モーラで発音していたが、平安、室町時代以降に日本化した発音になったらしい。

5-2. 日本人が中国語を学習する場合の困難の1つに、声調を習得することの難しさが挙げられるが、大学で外国語教育科目の単位をとることが主目的の、あまり真面目でない中国語学習者の中に、次のような発音をするものがよくいる。

| 全 | 国 | 人 | 民 | 代 | 表 | 大 | 会 |

| quan | guo | ren | min | dai | biao | da | hui |

| 高 | 低 | 高 | 低 | 高 | 低 | 高 | 低 |



| 強 | 弱 | 強 | 弱 | 強 | 弱 | 強 | 弱 |

なぜこのような発音になるのか、その理由は比較的簡単である。

1. 日本語のアクセントは“高さアクセント”だとは言っても、中国語の“高さアクセント”である声調と異なり、前のモーラが後のモーラより高い(またはその逆)、あるいは前、後のモーラの高さの差がない、といったモーラ間の高低比較であって、中国語のように同一音節内で低から高に移ったり、逆に高から低に移ったりすることがないから、中国語の4つの声調をすべて高、低の2つに解消してしまうのである。
2. 金田一春彦氏によると、邦楽はまず全部が2拍子だそうである。ということは、日本人は2拍子に馴れていることを意味する。したがって上例を|強|弱|強|弱|……という2拍子で発音するのである。そして強く発音すれば高くなりがちであり、弱く発音すれば低くなりがちであるから、高さアクセントの方も|強|弱|に合わせて、|高|低|高|低|……となるのである。

### § 6 漢字音の種類

明治維新の前後に、日本では西政文明を摂取するため、大量の翻訳語が作られたが、その大半は字音語であって、和語はごく少数であった。その理由として、<和語ではとかくだらだらと長くなりがちであるのに反して、字音語では短かくてすみ、多くの場合、2字で訳せるという便利さがあるからだ>というようなことがよく挙げられる。しかし長さを比較するとき、字音語は漢字の字数で、和語は仮名の字数で比較するのは不当であることが、案外忘れられているのではないだろうか。例えば<投票(トウヒョウ)>は英語 voting; polling の訳語だと言われているが、仮に<フダイレ(札入)>という和語で訳したとすると、拍の数は同じであって、字音語の方が短くなっているわけではない。また<宿舍(シュクシヤ)>〔注⑭〕は英語 lodgings; a dormitory の訳語だと言われているが、仮に<ヤド(宿)>という和語を使用したとすると、和語の方が漢字の数でも仮名の数でも少く、もちろん拍の数でも短い。字音語と和語の“長さ”を比較する場合、“拍(モーラ)”の数によらねばならないことを確認しておく必要がある。

6-1. 字音語の長さを和語と比べるためには、字音語の拍数を調べなけ

ればならない。そしてそのためには、さらに漢字音の拍数を知る必要があるのであるが、日本語の漢字音はすべて1拍か2拍である。しかし両者の比率はどれ位なのか、また漢字音と音節の関係はどうなっているのかを調べるために次の表を作成した〔注⑮〕〔補注②〕。

第1表 日本漢字音の種類および同音字字数表

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
φ	亜 1 21	意 21 119	羽 5 35	衣 5 19	汚 1 20	加 29 122
イ	愛 2 30		茴 2	永 10 65		会 20 158
ン	安 4 24	員 11 64	運 2 33	円 13 126	音 5 30	関 44 226
ウ					奥 13 79	
キ		域 1 8		益 6 27		
ク	悪 2 16	育 1 18			屋 4 7	各 17 95
チ		一 2 6			越 2	喝 2
ツ	庄 1 11	逸 2 24	鬱 5	越 4 21	乙 1 5	括 6 49
ャ						
ャク						
ユ						
ユン						
ユウ						
ユク						
ユツ						
ヨ						
ヨウ						
ヨク						
字数計	10 102	38 239	7 25	38 258	24 143	116 652
種類計	5 5	6 6	2 4	5 5	5 6	5 6

	ガ	キ	ギ	ク	グ	ケ
φ	我 6 31	奇 35 227	義 11 58	句 12 89	具 2 27	家 5 26
イ	該 7 44					計 27 142
ン	丸 8 39	均 12 69	銀 2 22	君 4 23	軍 3 5	権 29 165
ウ				空 1 2	偶 3 9	
キ						履 13
ク	学 4 26	菊 1 12				
チ		吉 1 2				血 4
ツ	月 1 6	喫 2 22	乞 1	屈 2 11		決 7 69
ヤ		伽 1				
ヤク		客 3 16	逆 2 6			
ユ						
ユン						
ユウ		弓 20 91	牛 1 1			
ユク						
ユツ						
ヨ		去 9 47	魚 3 13			
ヨウ		境 27 188	業 6 30			
ヨク		局 3 20	玉 1 3			
字数計	26 146	113 695	26 134	19 125	8 41	68 419
種類計	5 5	10 11	7 8	4 4	3 3	4 6

	ゲ	コ	ゴ	サ	ザ	シ
φ	下 3 19	古 19 99	互 13 48	左 9 61	座 1 11	士 46 246
イ	迎 3 23			最 24 104	在 5 11	弑 1
ン	原 11 66	困 12 74	言 3 17	三 10 97	残 2 18	心 27 119
ウ		効 60 371	号 8 48			
キ	激 3 19					式 4 8
ク		国 9 33	獄 2 2	策 8 53		
チ	陞 1	乞 3	仵 1	撈 2		質 2 5
ツ	月 1 21	骨 1 22	兀 7	札 7 20	雜 1 1	執 7 28
ャ						写 12 49
ャク						积 8 47
ユ						手 14 54
ユン						春 3 46
ユウ						集 22 113
ユク						宿 6 31
ユツ						出 1 6
ヨ						処 9 63
ヨウ						少 59 303
ヨク						触 9 52
字数計	21 149	101 602	26 123	58 337	9 41	229 1,171
種類計	5 6	5 6	4 6	5 6	4 4	15 16

	シ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ
φ	似 19 88	素 5 29	図 3 15	世 2 5	是 1 1	素 11 61
イ		水 14 62	随 2 16	勢 30 136	税 2 16	
ン	尽 8 59	寸 1 2		先 24 214	善 7 54	損 5 25
ウ		數 3 19				走 30 217
キ	食 2 4			石 14 68		
ク	軸 1 12	宿 1	熟 1			足 9 36
チ				雪 4	絶 1	
ツ	夾 2 7			切 10 48	舌 2 3	卒 2 8
ヤ	邪 1 5					
ヤク	弱 3 18					
ユ	受 7 41					
ユン	順 11 37					
ユウ	従 11 33					
ユク	熟 1 4					
ユツ	述 2 9					
ヨ	序 7 28					
ヨウ	乗 22 100					
ヨク	辱 1 7					
字数計	100 450	23 113	5 32	80 475	12 75	57 347
種類計	15 15	4 5	2 3	5 6	4 5	5 5

	ゾ	タ	ダ	チ	ツ	テ
φ	曾 3	他 3 42	打 4 44	地 11 61	都 1 5	
イ		対 19 84	台 7 32		追 3 18	低 21 129
ン	存 1 3	担 13 110	団 8 29	沈 6 32		天 8 80
ウ	増 9 19				通 2 2	
キ				筋 1		的 6 38
ク	俗 5 14	宅 6 44	濁 2 3	竹 5 11		
チ			達 1	秩 1		鉄 1
ツ		達 1 13	脱 2 7	秩 2 11		鉄 5 32
ャ				茶 1 1		
ャク				着 2 10		
ユ				柱 8		
エン				屯 6		
ユウ				中 12 59		
ユク						
ユツ				椽 5		
ヨ				貯 2 24		
ヨウ				長 23 122		
ヨク				直 2 14		
字数計	15 39	42 293	23 116	66 366	6 25	40 280
種類計	3 4	5 5	5 6	10 15	3 3	4 5



	デ	ト	ド	ナ	ニ	ヌ
φ		徒 10 37	度 5 16	納 1 10	尼 4 11	奴 4
イ	泥 1 4			内 1 4		
ン	伝 4 23	豚 1 32	鈍 2 11	難 4 9	忍 5 20	
ウ		等 36 220	同 9 57			
キ	溺 3					
ク		特 7 31	毒 3 9		肉 1 5	
チ					日 1 3	
ツ	捏 4	突 1 8	訥 2	捺 1		
ヤ					若 1	
ヤク					若 4	
ユ					乳 1	
ユン						
ユウ					入 3 4	
ユク						
ユツ						
ヨ					女 2 3	
ヨウ					尿 1 13	
ヨク						
字数計	5 34	55 328	19 95	6 24	17 65	0 4
種類計	2 4	5 5	4 5	3 4	7 10	0 1

	ネ	ノ	ハ	バ	ヒ	ビ
φ	涅 2	能 3	波 3 36	馬 2 14	非 18 117	尾 5 45
イ	寧 1 8		杯 10 55	倍 8 33	最 1	
ン	年 5 20	吞 1	半 20 75	晚 7 39	品 4 27	敏 3 29
ウ		納 6 20				
キ					匹 1 1	
ク		罇 1	博 8 53	爆 5 34		
チ	捏 3		八 1 4	罰 3	葦 3	
ツ	熱 1 2		発 2 22	伐 4 20	必 4 26	宓 3
ヤ						
ヤク					百 1 7	白 1 6
ユ						
ユン						
ユウ					彪 1	謬 2
ユク						
ユツ						
ヨ						
ヨウ					氷 8 55	病 5 29
ヨク					偏 6	
字数計	7 35	6 25	44 245	26 143	36 244	14 114
種類計	3 5	1 4	6 6	5 6	6 10	4 6

	フ	ブ	ヘ	ベ	ホ	ボ
φ	不 21 88	部 7 48	屁 5	別 2	保 6 36	母 7 21
イ			兵 10 68	米 1 7		
ン	粉 7 39	文 3 11	辺 7 38	便 5 45	本 3 19	凡 2 11
ウ	風 2 34				法 20 157	防 21 126
キ			壁 2 17	幕 9		
ク	伏 9 32	伏 1			北 1 14	墨 4 27
チ				別 2	発 2	
ツ	払 2 22	仏 2 8	慇 13	別 1 14	発 1 8	没 1 12
ヤ						
ヤク						
ユ						
ユン						
ユウ						
ユク						
ユツ						
ヨ						
ヨウ						
ヨク						
字数計	41 215	12 68	19 141	7 79	31 236	35 197
種類計	5 5	3 4	3 5	3 6	5 6	5 5

	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
φ	麻 3 9	味 3 12	無 6 29	馬 3	模 2 14	夜 2 15
イ	毎 5 21			銘 7 18		
ン	満 4 24	民 2 17		面 3 23	門 4 14	
ウ					毛 6 47	
キ						
ク	幕 2 5				木 3 10	葉 5 33
チ	秣 1			減 1	没 3	
ツ	末 1 7	密 1 5		減 1 1	物 1 1	
ヤ						
ヤク		脈 1 6				
ユ						
ユン						
ユウ						
ユク						
ユツ						
ヨ						
ヨウ		妙 4 21				
ヨク						
字数計	15 67	11 61	6 29	11 46	16 89	7 48
種類計	5 6	5 5	1 1	3 5	5 6	2 2

	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ
φ	油 5 38	与 5 27	裸 1 18	利 8 50	流 2 26	
イ	唯 2 4		来 3 37		類 4 21	例 11 72
ン			乱 5 41	隣 7 38		練 5 43
ウ	有 15 71	幼 20 136				
キ				力 1 3		歴 2 20
ク		浴 5 21	落 4 15	陸 1 6		
チ			埒 2	律 2		
ツ			辣 8	率 3 10		列 4 12
ヤ						
ヤク				略 1 9		
ユ						
ユン						
ユウ				流 6 41		
ユク						
ユツ						
ヨ				旅 3 15		
ヨウ				良 14 87		
ヨク				緑 2 9		
字数計	22 113	30 184	13 121	46 270	6 47	22 147
種類計	3 3	3 3	4 6	10 11	2 2	4 4

	ロ	ワ	字数計	種類計	字数%	種類%
φ	路 3 41	和 2 12	415 2,421	52 59	20.6 20.5	18.0 17.0
イ		賄 1 15	261 1,441	30 33	13.0 12.2	10.4 9.5
ン	論 1 3	腕 2 15	398 2,492	53 54	19.8 21.1	18.3 15.5
ウ	老 8 86		272 1,720	19 19	13.5 14.6	6.6 5.4
キ			42 239	11 15	2.1 2.0	3.8 4.3
ク	録 3 28	惑 2 6	139 715	31 35	6.9 6.1	10.7 10.0
チ			7 65	5 27	0.3 0.6	1.7 7.7
ツ			99 661	38 47	4.9 5.6	13.1 13.5
ヤ			14 57	3 5	0.7 0.5	1.0 1.4
ヤク			22 129	9 10	1.1 1.1	3.1 2.9
ユ			21 104	2 4	1.0 0.9	0.7 1.1
ユン			14 89	2 3	0.7 0.8	0.7 0.9
ユウ			75 345	7 9	3.7 2.9	2.4 2.6
ユク			7 35	2 2	0.3 0.3	0.7 0.6
ユツ			3 20	2 3	0.1 0.2	0.7 0.9
ヨ			35 193	7 7	1.7 1.6	2.4 2.0
ヨウ			169 948	10 10	8.4 8.0	3.5 2.9
ヨク			18 111	6 7	0.9 0.9	2.1 2.0
字数計	15 158	7 48	2,011 11,787		100.0 100.0	
種類計	4 4	4 4		289 349		100.0 100.0

注④ 上段の数字は<角川・漢和中華辞典>の「当用漢字音訓表」による字数を、下段の数字は同辞典の「音訓索引」による字数を示す。「音訓索引」による字数は、“正字” “略字” “俗字” を別字として計算してある。

⑤ この表には挙げていないが、同辞典の「音訓索引」には<サム><タニ>という字音があり、それぞれ<三><丹>の1字ずつを挙げている。この表の字数計にはこの2字を加えてあるが、種類計には算入していない。



② 同字典の『音訓索引』は<擲><擲>を<チャク>(呉音)としてあるが、この表では<ジャク>の中に算入してある。

6-2. まず1拍の字音はどれかと言うと、2-1で示した日本語音節構造規則の /C(S)V/ に当たるものがそれであるから、この表の<-φ><-ャ><-ユ><-ョ>の欄に書かれているのがそうである。そして2拍の字音はそれ以外の欄に書かれているものであるが、1拍および2拍の漢字音の種類、およびそれに所属する漢字の数をまとめると次のようになる。

字数の比率

	1 拍		2 拍		計	
	字数	%	字数	%	字数	%
当用漢字	485	24強	1,526	76弱	2,011	100
角川索引	2,775	24弱	9,012	76強	11,787	100

種類の比率

	1 拍		2 拍		計	
	種類数	%	種類数	%	種類数	%
当用漢字	64	22強	225	78弱	289	100
角川索引	75	21強	274	79弱	349	100

この表で分かるように、1拍の漢字は字数で全体の大体1/4、字音の種類で1/5であると言うことができ、2拍の漢字が、字数の点でも字音の種類の数でも、全体の大半を占めることがわかる。しかも字音語は2字で構成されることが多いから、2字の複合語では1拍と2拍の差が増幅されて、4拍の語が圧倒的に多くなり、3拍がそれに次ぎ、2拍の複合字音語の占める比率は極めて小さくなる〔注⑩〕。

6-3. 次に漢字音と音節の関係を見てみよう。2-1で紹介したように、日本語の音節構造は

/C(S)V(M)/

である。ところで第1表は“現代仮名遣い”によって表記してあるから、

次のように実際の発音と異なる場合が若干ある。

- ① -o+- ウ → -oR (オ段長音)
- ② -u+- ウ → -uR (ウ段長音)
- ③ -i+- ヨウ → -joR (ヨ長音)
- ④ -i+- ユウ → -juR (ユ長音)
- ⑤ -e+- イ → -eR (エ段長音)

このことをふまえて第1表の縦軸を検討してみると次のようになる。

-φ, -ャ, -ユ-ヨ = /C(S)V/ (ア行およびヤ, ユ, ヨ, ワの頭子音は/’/である) の場合。つまり/M/のない場合。

-イ = /C(S)VM/ (/M/ → /J/, ただし /-ej/ のときはさらに /J/ → /R/) の場合。

-ン, -ユン = /C(S)VM/ (/M/ → /N/) の場合。

-ウ, -ユウ, -ヨウ = /C(S)VM/ (/M/ → /R/) の場合。

これから分かるように, <-φ><-ャ><-ユ><-ヨ> はもちろん <-イ><-ン><-ユン><-ウ><-ユウ><-ヨウ> の場合もすべて1音節をなすのである。縦軸で残るのは

-キ

-ク, -ャク, -ユク, -ヨク

-チ

-ツ, -ユツ

である。しかし、これらはいずれにしても <-キ><-ク><-チ><-ツ> で終わっているのであるが、これらは中古漢語の入声韻尾に由来し、それとの関係は次のようになっている。

-キ } ← /-k/

-ク }

-チ } ← /-t/ [補注③]

-ツ }

そしてこの4音は、{/p,t,k,c,s/}の前においては/M/ (実際には/q/) となるのである。従ってこの4音が{/p,t,k,c,s/}の前に位置しているということを条件にするならば、第1表「日本漢字音の種類および同音字字数表」は、「日本漢字音音節全表」ということになる。

中国語では音節全表を、第2表のように声母を縦軸に、韻母を横縦にして作成する。これに倣って/C/を縦軸に、/(S)V(M)/を横軸にして作成し

第2表 中国語同音字字数表 (中国語音節全表)

	a	o	e	ê	ai	ei	ao	ou	an	en	ang	eng	er	i	ia	ie	iao	iou	iu	ian	in	iang	ing	u	ua	uo	uai	uei	ui	uan	uen	un	uang	ueng	ong	ü	üe	üan	ün	iong	字数計	種類計	字数%	種類%								
♯	8	5	33	4	28	3	28	13	22	4	3	1	14	127	34	25	39	49	72	41	31	45	59	13	19	4	65	27	20	17	10	106	25	39	33	29	1,095	36	13.5	8.8												
b	29	42			14	29	27		22	12	15	12		57	7	13			26	16			17	19																			357	16	4.4	3.9						
p	12	23			11	15	15	4	20	4	14	19		46	5	17			13	12			15	29																						274	17	3.4	4.1			
m	19	41	2		9	29	31	9	21	9	12	25		30	6	16	2	16	17				14	23																							331	19	4.1	4.6		
f	11	1			30			2	26	24	20	26												95																							235	9	2.9	2.2		
d	21		8		25	1	20	19	30	1	15	12		46	1	18	16	2	26				21	28		24		7	10	19					19												389	23	4.8	5.6		
t	25		5		18		20	6	28		28	10		29		7	19			20			24	20		28		8	4	10					29													338	19	4.2	4.6	
n	19		3		11	4	14	1	10	2	8	1		22		15	6	8	13	1	2	12	6		9			1					6	5	2													175	24	2.2	5.9	
l	17	1	10		12	25	20	21	22		19	7		81	1	17	26	27	24	23	20	31	45		34			11	11			21	22	2															551	26	6.8	6.3
g	12		39		13	1	20	25	28	7	17	13											52	15	20	4	29	23	7	8	24																357	19	4.4	4.6		
k	7		40		14	1	8	8	17	6	10	4											11	6	6	13	29	3	14	18	8																	223	19	2.8	4.6	
h	5		38		14	2	26	17	35	4	10	12											52	18	24	8	43	29	12	29	22																	400	19	4.9	4.6	
j															115	41	54	56	27	75	39	27	40													64	36	19	21	9	623	14	7.7	3.4								
q															85	6	15	34	30	49	26	26	28												42	13	24	5	9	392	14	4.8	3.4									
x															94	21	45	37	22	54	19	30	27												35	13	29	35	11	472	14	5.8	3.4									
zh	42		25		13	1	22	33	27	37	24	27		92									53	4	27	3	12	12	8	11	17																490	20	6.1	4.9		
ch	31		9		10		15	20	30	23	27	29		38									33		9	9	10	13	10	10	15																	341	18	4.2	4.4	
sh	22		23		4	1	23	13	44	31	14	18		72									47	4	10	6	5	4	4	6																	351	19	4.3	4.6		
r			3			8	6	7	20	10	3			1									21	1	8		9	2	2		14																	115	15	1.4	3.7	
z	9		14		10	2	17	8	12	2	9	10		42									11		22		10	7	5		12																		202	17	2.5	4.1
c	5		6		12	3	9	3	13	3	7	5		25									13		16		17	8	7		12																		164	17	2.0	4.1
s	10		7		7		9	16	8	1	7	1		39									25		16		18	6	8		16																		194	16	2.4	3.9
字数計	298	113	265	4	225	148	332	224	422	190	269	235	14	309	732	104	214	279	167	388	194	136	274	642	61	272	47	262	160	137	99	225	274	91	111	94	58	8,083	///	100.0	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///		
種類計	18	6	16	1	17	15	18	18	19	17	19	19	1	7	11	6	11	11	8	11	9	6	11	19	7	15	7	13	15	14	7	14	6	6	4	4	4	///	410	///	100.0	///	///	///	///	///	///	///	///	///		
字数%	3.7	1.4	3.3	0.0	2.8	1.8	4.1	2.8	5.2	2.4	3.3	2.9	0.2	3.8	9.1	1.3	2.6	3.5	2.0	4.8	2.4	1.7	3.4	7.9	0.8	3.4	0.6	3.2	2.0	1.7	1.2	2.8	3.4	1.1	1.4	1.2	0.7	100.0	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///			
種類%	4.4	1.5	3.9	0.2	4.1	3.7	4.4	4.4	4.6	4.1	4.6	4.6	0.2	1.7	2.7	1.5	2.7	2.7	2.0	2.7	2.2	1.5	2.7	4.6	1.7	3.7	1.7	3.2	3.7	3.4	1.7	3.4	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	///	100.0	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///			

(272)

たのが、第3表の「(条件付き)日本漢字音音節全表」である。第2表には、日本漢字音の分布状況と対照させるため、《新華字典》(商務印書館、1971年8月北京第1次印刷本)を資料として、その音節に所属する漢字数を記してある。

#### 第2表の注

① この表以外に、'hm' 1字、'hng' 1字、'io' 3字、'm' 3字、'n' 3字、'ng' 3字があるが、いずれも感嘆詞、語気助詞および方言用字としてしか使用されないものである。字数計にはこの14字を含めてある。

② 同じ字体でもローマ字の綴り、あるいは声調を異にするものは、別字として計算してある。

③ 音節の種類計には①の音節を含めていない。

④ 《新華字典》の凡例によると、同字典所載の漢字は、異体字を含めると8,500字位になるそうである。

⑤ 1956年版《新華字典》を資料として松本昭氏の作成した「中国語同音字数表」が、《言語生活》179号(41年8月号)63頁に載っているが、それによると字数計は6,990字である。

第3表 日本漢字音音節全表

	直 音 韻								
	ア	アイ	アク	アチ	アツ	アン	イ	イキ	イク
	a	ai	aku	ati	atu	an	i	iki	iku
ア行 φ	1 21	2 30	2 16		1 11	4 24	21 119	1 8	1 18
カ // k	29 122	20 158	17 95	2	6 49	44 226	35 227		1 12
ガ // g	6 31	7 44	4 26		1 6	8 39	11 58		
サ // s	9 61	24 104	8 53	2	7 20	10 97	46 246	4 8	
ザ // z	1 11	5 11			1 1	2 18	19 88	2 4	1 12
タ // t	3 42	19 84	6 44		1 13	13 110	11 61		5 11
ダ // d	4 44	7 32	2 3	1	2 7	8 29			
ナ // n	1 10	1 4				4 9	4 11		1 5
ハ // h	3 36	10 55	8 53	1 4	2 22	20 75	18 117	1 1	
バ // b	2 14	8 33	5 34	3	4 20	7 39	5 45		
マ // m	3 9	5 21	2 5	1	1 7	4 24	3 12		
ラ // r	1 18	3 37	4 15	2		5 41	8 50	1 3	1 6
ワ // w	2 12	1 15	2 6			2 15			
字数計	65 431	112 628	60 350	1 15	26 165	131 746	181 1,034	9 25	10 64
種類計	13 13	13 13	11 11	1 7	10 12	13 13	11 11	5 6	6 6
字数%	3.2 3.7	5.6 5.3	3.0 3.0	0.0 0.1	1.3 1.4	6.5 6.3	9.0 8.8	0.4 0.2	0.5 0.5
種類%	4.5 3.7	4.5 3.7	3.8 3.2	0.3 2.0	3.5 3.5	4.5 3.7	3.8 3.2	1.7 1.7	2.1 1.7



	直 音 韻								
	イチ	イツ	イン	ウ	ウイ	ウー	ウク	ウツ	ウン
	iti	itu	in	u	ui	uu	uku	utu	un
ア行 $\phi$	2 6	2 24	11 64	5 35					2 33
カ // k	1 2	2 22	12 69	12 89	2		1 2	2 11	4 23
ガ // g		1 22	2 27	2		3 9			3 5
サ // s	2 5	7 28	27 119	5 29	14 62	3 19		1	1 2
ザ // z		2 7	8 59	3 15	2 16			1	
タ // t	1	2 11	6 32	1 5	3 18	2 2			
ダ // d									
ナ // n	1 3		5 20	4					
ハ // h	3	4 26	4 27	21 88		2 34	9 32	2 22	7 39
バ // b		3 29	3 29	7 48				2 8	3 11
マ // m		1 5	2 17	6 29					
ラ // r	2	3 10	7 38	2 26	4 21				
ワ // w									
字数計	6 22	23 137	87 496	64 395	23 119	11 66	9 35	6 46	20 113
種類計	4 7	8 10	11 11	10 11	4 5	5 5	1 4	3 4	6 6
字数%	0.3 0.2	1.1 1.2	4.3 4.2	3.2 3.4	1.1 1.0	0.5 0.6	0.4 0.3	0.3 0.4	1.0 1.0
種類%	1.4 2.0	2.8 2.9	3.8 3.2	3.5 3.2	1.4 1.4	1.7 1.4	0.3 1.2	1.0 1.2	2.1 1.7

	直 音 韻								
	エ	エイ	エキ	エチ	エツ	エン	オ	オー	オク
	e	ei	eki	eti	etu	en	o	oo	oku
ア行 φ	5 19	10 65	6 27		4 21	13 126	1 20	13 79	4 7
カ // k	5 26	27 142	13	4	7 69	29 165	19 99	60 371	9 33
ガ // g	3 19	3 23	3 19	1	1 21	11 66	13 48	8 48	2 2
サ // s	2 5	30 136	14 68	4	10 48	24 214	11 61	30 217	9 36
ザ // z	1 1	2 16		1	2 3	7 54		9 19	5 14
タ // t		21 129	6 38	1	5 32	8 80	10 37	36 220	7 31
ダ // d		1 4	3		4	23	5 16	9 57	3 9
ナ // n	2	1 8		3	1 2	5 20		6 20	1
ハ // h	5	10 68	2 17		7 13	38	6 36	20 157	1 14
バ // b	2	1 7	9	2	1 14	5 45	7 21	21 126	4 27
マ // m	3	7 18		1	1 1	3 23	2 14	6 47	3 10
ラ // r		11 72	2 20		4 12	5 43	3 41	8 86	3 28
ワ // w									
字数計	16 82	124 688	33 214	17	36 240	121 897	77 399	226 1,447	50 212
種類計	5 9	12 12	6 9	8	10 12	12 12	10 12	12 12	11 12
字数%	0.8 0.7	6.2 5.8	1.6 1.8	0.1	1.8 2.0	6.0 7.6	3.8 3.4	11.2 12.3	2.5 1.8
種類%	1.7 2.6	4.2 3.5	2.1 2.6	2.3	3.5 3.5	4.2 3.5	3.5 3.5	4.2 3.5	3.8 3.5

	直 音 韻			拗 音 韻					
	オチ	オツ	オン	ャ	ャク	ユ	ユイ	ユー	ユク
	oti	otu	on	ya	yaku	yu	yui	yuu	yuku
ア行 φ		1	5	2	5	5	2	15	
	2	5	30	15	33	38	4	71	
カ k		1	12		3			20	
	3	22	74	1	16			91	
ガ g			3		2			1	
	1	7	17		6			1	
サ s		2	5	12	8	14		22	6
		8	25	49	47	54		113	31
ザ z			1	1	3	7		11	1
			3	5	18	41		33	4
タ t		1	1	1	2			12	
		8	32	1	10	8		59	
ダ d			2						
		2	11						
ナ n								3	
			1	1	4	1		4	
ハ h		1	3		1				
	2	8	19		7			1	
バ b		1	2		1				
		12	11		6			2	
マ m		1	4		1				
	3	1	14		6				
ラ r			1		1			6	
			3		9			41	
ワ w									
字数計		8	39	16	27	26	2	90	7
	11	73	240	72	162	142	4	416	35
種類計		7	11	4	10	3	1	8	2
	5	9	12	6	11	5	1	10	2
字数%		0.4	1.9	0.8	1.3	1.3	0.1	4.5	0.3
	0.1	0.6	2.0	0.6	1.4	1.2	0.0	3.5	0.3
種類%		2.4	3.8	1.4	3.5	1.0	0.3	2.8	0.7
	1.4	2.6	3.5	1.7	3.2	1.4	0.3	2.9	0.6

	拗音韻					字 数 計	種 類 計	字 数 %	種 類 %
	ユツ	ユン	ヨ	ヨー	ヨク				
	yutu	yun	yo	yoo	yoku				
ア行 φ			5 27	20 136	5 21	176 1,162	31 34	8.8 9.9	10.7 9.8
カ // k			9 47	27 188	3 20	417 2,493	28 33	20.7 21.2	9.7 9.5
ガ // g			3 13	6 30	1 3	107 593	24 28	5.3 5.0	8.3 8.1
サ // s	1 6	3 46	9 63	59 303	9 52	447 2,442	34 37	22.2 20.7	11.8 10.7
ザ // z	2 9	11 37	7 28	22 100	1 7	139 639	28 31	6.9 5.4	9.7 8.9
タ // t			2 24	23 122	2 14	209 1,292	27 33	10.4 11.0	9.3 9.5
ダ // d						47 245	11 15	2.3 2.1	3.8 4.3
ナ // n			2 3	1 13		36 153	14 24	1.8 1.3	4.8 6.9
ハ // h				8 55		171 1,080	25 31	8.5 9.2	8.7 8.9
バ // b				5 29		94 601	20 27	4.7 5.1	6.9 7.8
マ // m				4 21		59 292	19 23	2.9 2.5	6.6 6.6
ラ // r			3 15	14 87	2 9	102 743	24 27	5.1 6.3	8.3 7.8
ワ // w						7 48	11 12	0.3 0.4	3.8 3.5
字数計	3 20	14 89	40 220	189 1,084	23 132	2,011 11,787		100.0 100.0	
種類計	2 3	2 3	8 8	11 11	7 8		289 347		100.0 100.0
字数%	0.1 0.2	0.7 0.8	2.0 1.9	9.4 9.2	1.1 1.1	100.0 100.0			
種類%	0.7 0.9	0.7 0.9	2.8 2.3	3.8 3.2	2.4 2.3		100.0 100.0		

注④ 上・下段の数字の来源は、第1表の注④に同じ。

⑤ この第3表は、松本昭氏「同音語——日本の漢語（字音語）と中国語の場合——」（《言語生活》179号、41年8月号）に載せられているほぼ同様の表の枠組を借用させてもらった。字数については、第1表から転記したものであって、松本氏の字数と若干異なる〔注⑦〕。

⑥ 第1表注⑤の〈三サム〉〈丹タニ〉および第1表に載せられている〈弑シイ〉〈量ヒイ〉の4字は、第3表の枠組では納まる場所がないので除外してあるが、字数計には算入した。ただし種類計には算入していない。

6-3. 次に第2表と第3表に基づいて作成した、同音字50個以上を持つ音節の一覧表が第4表および第5表である。

第4表 同音字数50字以上の音節順位表（〈新華字典〉による）

順	音節	字数	順	音節	字数	順	音節	字数
1	yi	127	8	li	81	15	bi	57
2	ji	115	9	jian	75	16	jiao	56
3	yu	106	10	yan	72	17	jie	54
4	fu	95	11	shi	72	18	xian	54
5	xi	94	12	wei	65	19	zhu	53
6	zhi	92	13	ju	64	20	gu	52
7	qi	85	14	wu	59	21	hu	52

第5表 同音字数50字以上の漢字音順位表（〈角川・漢和中辞典〉による）

順	音	角 字	川 数	当 字	用 数	順	音	角 字	川 数	当 字	用 数
1	コウ	371		60		17	エン	126		13	
2	ショウ	303		59		18	ポウ	126		21	
3	シ	246		46		19	カ	122		29	
4	キ	227		35		20	チョウ	122		23	
5	カン	226		44		21	イ	119		21	
6	トウ	220		36		22	シン	119		27	
7	ゾウ	217		30		23	ヒ	117		18	
8	セン	214		24		24	ジュウ	113		22	
9	キョウ	188		27		25	タン	110		13	
10	ケン	165		29		26	サイ	104		24	
11	カイ	158		20		27	ジョウ	100		22	
12	ホウ	157		20		28	コ	99		19	
13	ケイ	142		27		29	サン	97		10	
14	セイ	136		30		30	カク	95		17	
15	ヨウ	136		20		31	キュウ	91		20	
16	テイ	129		21		32	ク	89		12	



順	音	角 字	川 数	当 字	用 数	順	音	角 字	川 数	当 字	用 数
33	ジ		88		19	51	ジョ		63		9
34	フ		88		21	52	スイ		62		14
35	リョウ		87		14	53	チ		61		11
36	ロウ		86		8	54	サ		61		9
37	タイ		84		19	55	ソ		61		11
38	テン		80		8	56	ジン		59		8
39	オウ		79		13	57	チュウ		59		12
40	ハン		75		20	58	ギ		58		11
41	コン		74		12	59	ドウ		57		9
42	レイ		72		11	60	ヒョウ		55		8
43	ユウ		71		15	61	シュ		54		14
44	キン		69		12	62	ゼン		54		7
45	ケツ		69		7	63	サク		53		8
46	セキ		68		14	64	ハク		53		8
47	ヘイ		68		10	65	ショク		52		9
48	ゲン		66		11	66	ハイ		51		10
49	エイ		65		10	67	リ		50		8
50	イン		64		11						

注① <角川字数>は<角川・漢和中辞典>の『音訓索引』による字数を示す。

② <当用字数>は同辞典の『当用漢字音訓表』による字数を示す。

第1表～第5表の持つ詳細な意味は、紙数の関係でここでは述べられないので、近刊<日本語と中国語>を見られたい。(1973年9月12日)

注① もし“r化韻”を考慮すれば数が増える。なお本稿での<中国語>とは、特に断わらないかぎり「普通話」<共通語>を意味する。そして北京語の音韻体系を「普通話」の音韻体系の規準とする。

注② 金田一春彦<日本語音韻の研究>(東京堂出版, 1967年)第3章に, “音節”

と“モーラ”についての詳しい解説がある。

注③ 国広哲弥<構造的意味論> (三省堂, 1967年) p.172f.

注④ Zadoenko 「漢語弱読音節和軽声の実験研究」 (<中国語文>79期, 1958年12月号)

注⑤ 中国語の強さアクセントを“重・強・弱・軽”の4段階に、あるいは“重・強・中・弱・軽”の5段階に分けることが考えられている。例えば、松本昭「中国語形態素の形及び意味に関する考察」(東京教育大学文学部, 1968年3月)

注⑥ 伊地智善継「声調の話(2)」 (<NHK入門中国語テキスト>1968年10月号) p.59.

注⑦ 菊田正信「現代語の音韻」 (<中国文化叢書・言語篇> (大修館書店, 1967年11月))

注⑧ 本項および次の八項では、漢語拼音方案によって音節を示す。

注⑨ 漢語拼音方案は韻尾/φ/を認めないが、韻尾/φ/は全く実質のないものではなく、菊田氏の指摘するように、先行する母音が多少の緩みを伴って尾を引いているものと考えられる。このことは、5-1で述べるように、/φ/韻尾のときもその他の韻尾のときも、他の条件が同様ならば、音節の長さがほぼ同じである、ということからも正当と認められよう。

注⑩ 中国語音節の構造規則の正解(そんなものが存在するかどうか疑わしいのだが)は、3-6で示したものが唯一のものでなく、他にも考えられようが、日本語より複雑なものになることだけは間違いのないと思われる。一般に共起関係を構造規則だけで表わそうとすると、非常に複雑になることが指摘されている。

注⑪ 広東語では、「三」[sa:m]—「心」[sam]のように、長・短の区別がある。

注⑫ 筆者の講義ノートから引用したが、元どこから引用されたものか不明。

注⑬ 藤堂明保・小林博<音注韻鏡校本> (木耳社, 1971年)

注⑭ <宿舎>の説明として、三省堂<新明解国語辞典>は次のような説明をしている。

㊦旅先などで泊まる(予定の)旅館。「国民一㊦」㊧公務員などに不当に安い家賃で提供される住宅。

この辞典の説明はユニークな点が多いが、㊧の説明はどうであろうか。

注⑮ これに類似の表は、水谷静夫氏が「漢字音の組合せによる同音語」 (<言語生活> 169号, 40年10月)において作成しているが、ミスプリントか計算違いか、ある程度の誤りが見られるので、筆者が全面的に計算しなおした。なお同氏は当用漢字音訓表で認めている漢字の数だけを挙げている。

このような調査表は、筆者の今回の目的以外にも、いろいろな役割を果たし得るであろう。ただし、漢和字典の示す字音には、江戸時代に人工的に作られた音もあるこ

とを心得ておく必要がある。

注⑩ どの漢字とどの漢字が結合しているかは実態調査をすれば分かるが、将来どのような結合をするかを予測することはできない。それは文化の創造にかかわる問題であるからである。従ってここでは、すべての漢字が同一の結合可能性を持っているという前提に立って論じている。

しかし実態はどうかと言えば、国語辞典をばらばらとめくってみるだけでも、字音語は4拍のものが圧倒的に多いことが容易に分かる。

注⑪ 松本氏の論文は、実は《言語生活》相談室宛の筆者の質問に答えるために書かれたものである。筆者は、このような問題は国語学者によって、すでにある程度解明されているものと思い、軽い気持ちで質問したのであるが、当時、国立国語研究所におられた同氏は、非常な努力を払われて事実を調査し、検討を加えられた。本稿の漢字音の種類は、同氏の論文に負うところが多い。この際、記して謝意を表す。

補注① /I(M) VE・T/ という中国語の構造は、上古漢語以来変化がないと考えることができる。

補注② 岩波全書《漢文入門》の巻末に「字音かなづかい表」が載っているが、その説明によると、＜漢呉音を通算し、両方に重複するものを一類として数えると、約412類であり、現代かなづかいに改めると300類ほどに減少する＞とある。この300類という数字は、第1表の349種類という数字とかなり食い違っているが、それは＜ガツ（月）＞のような慣用音を《漢文入門》が収録していないためと思われる。

山田孝雄氏の《国語の中に於ける漢語の研究》では、呉音は365種類、漢音は299種類である。

補注③ 第1表を見れば

キki : クku = 1 : 3

チti : ツtu = 1 : 10

つまり、中古漢語の/-k/にしる /-t/ にしる、日本人は後続の母音として /-u/ を使用した場合の方が、 /-i/ を使用した場合より圧倒的に多いことが分かる。ことに拗音では、＜-ャク＞＜-ユク＞＜-ユツ＞＜-ヨク＞のみがあって、＜-ャキ＞＜-ユキ＞＜-ユチ＞＜-ヨキ＞はない。拗音で＜-ャキ＞などが現われなかったのは、北京音の次のような、介母と韻尾に同一の音が現われないという現象に平行するものである。

- iaw — \* - iaj

- uaj — \* - uaw

ちなみに中古漢語の入声韻尾と漢音、呉音との対照は次の通りである。

摂	山臻	梗曾	宕通
韻尾	-t	-k	-k
漢音	ツ	ク・キ	ク
呉音	ツ・チ	ク・キ	ク